

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
植村健一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	作業療法概論 見学実習 作業療法評価学Ⅱ 基礎作業学 人間関係論 臨床評価学 地域実習 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習
池田真一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	運動学 作業療法概論 高次脳機能作業療法学 見学実習 作業療法評価学Ⅱ 臨床評価学 地域実習 地域作業療法学 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習
満吉幸一	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	作業療法評価学Ⅰ 見学実習 作業療法概論 基礎作業学 高齢期作業療法学 臨床評価学 地域実習 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習
橋口信洋	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	作業療法概論 見学実習 義肢装具学 中枢神経作業療法学 末梢神経作業療法学 社会生活行為学 臨床評価学 地域実習 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習
園屋和之	作業療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本作業療法士協会 会員	精神医学 作業療法概論 見学実習 精神機能作業療法学 作業療法管理学 地域実習 臨床評価学 評価実習 基礎作業療法学演習 専門作業療法学演習 臨床実習

教育課程及び授業時数

専門課程(医療分野)

(授業科目及び単位)

作業療法学科							
区分	科目	規定単位	計画	1学年	2学年	3学年	実務
			単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	教育学	2 (30)	2(30)			
		物理学	2 (30)	2(30)			
		医療倫理学	1 (15)	1(15)			
		医療統計学	2 (30)	2(30)			
		医学英語	2 (30)	2(30)			
		人間発達学	2 (30)	2(30)			
	人間関係論	7 (210)	3(90)	4(120)		○	
小計		14	18 (375)	14(255)	4(120)		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	4 (60)	4(60)			
		運動学	4 (60)	4(60)			○
		機能解剖学	6 (120)	6(120)			○
		生理学	8 (120)	8(120)			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	2 (30)	2(30)			
		病理学概論	2 (30)	2(30)			
		内科学	4 (60)	4(60)			
		整形外科学	4 (60)		4(60)		
		神経内科学	4 (60)	4(60)			
		精神医学	4 (60)	4(60)			○
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉学	2 (30)		2(30)		
		医学概論	2 (30)	2(30)			
小計		30	48 (750)	40(630)	8(120)		
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学	3 (90)	2(60)	1(30)		○
		作業療法概論	4 (60)	4(60)			○
		基礎作業療法学演習	5 (150)			5(150)	○
		専門作業療法学演習	5 (150)			5(150)	○
	作業療法管理学	作業療法管理学	2	2 (30)		2(30)	○
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	4 (120)	4(120)			○
		作業療法評価学Ⅱ	4 (120)		4(120)		○
		臨床評価学	8 (240)		8(240)		○
	作業療法治療学	発達作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		中枢神経作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		末梢神経作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		精神機能作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		高齢期作業療法学	4 (60)		4(60)		○
		高次脳機能作業療法学	2 (30)		2(30)		○
		義肢装具学	3 (60)		3(60)		○
	地域作業療法学	社会生活行為学	4	3 (60)		3(60)	○
		地域作業療法学	4	3 (60)		3(60)	○
臨床実習	見学実習	22	1 (45)	1(45)		○	
	地域実習	22	1 (45)		1(45)	○	
	評価実習	22	3 (135)		3(135)	○	
	臨床実習	22	18 (810)			18(810)	○
小計		57	89 (2505)	11(285)	50(1110)	28(1110)	
合計		101	155 (3630)	65(1170)	62(1350)	28(1110)	

【授業概要】

解剖・生理・運動学国家試験問題および業者模擬試験設問の解説を加え、基礎医学知識の再確認と関連国家試験問題の正答数を増やしていく。
臨床医学問題の解説を行い、国家試験問題をより多く正答できるようにする。
自身でその問題の選択肢の正誤の理由を確認出来るよう問題解決能力のプロセスを見に付ける。
半構造化面接の練習を行い、聴く、質問する能力を磨く

【到達目標】

国家試験問題の解剖、生理、運動、神経内科、整形外科、内科系の問題の一部領域知識を習得し、国家試験問題の解答に応用できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	解剖学系問題 4問解説	植村
2	解剖学系問題 4問解説	植村
3	解剖学系問題 4問解説	植村
4	解剖学系問題 4問解説	植村
5	解剖学系問題 4問解説	植村
6	生理学系問題 4問解説	植村
7	生理学系問題 4問解説	植村
8	生理学系問題 4問解説	植村
9	生理学系問題 4問解説	植村
10	生理学系問題 4問解説	植村
11	運動学系問題 4問解説	植村
12	運動学系問題 4問解説	植村
13	運動学系問題 4問解説	植村
14	運動学系問題 4問解説	植村
15	解剖・生理・運動学の国家試験問題のテスト実施	植村
16	神経内科学系問題 3問解説	植村
17	神経内科学系問題 3問解説	植村
18	神経内科学系問題 4問解説	植村
19	整形外科系問題 3問解説	植村
20	整形外科系問題 3問解説	植村
21	整形外科系問題 3問解説	植村
22	整形外科系問題 3問解説	植村
23	内科学系問題 3問解説	植村
24	内科学系問題 3問解説	植村
25	内科学系問題 3問解説	植村
26	内科学系問題 3問解説	植村
27	COPM面接に関して	植村
28	COPM面接練習	植村
29	COPM面接実技試験	植村
30	COPM面接実技試験	植村
31	筆記試験（解剖、生理、運動学 臨床医学系に関する国家試験問題から100問）	植村

【授業外学修】

解説をする設問をあらかじめ指定しておくので出来るだけ調べておくこと

【教科書名】

作業療法がわかる吉川ひろみ AMPS・COPMスターティングガイド.医学書院,2008.

【参考図書】

津村 弘 他 編:標準整形外科学第14版.医学書院,2020.
奈良勲 他監修:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第4版.医学書院,2020.
川平和美 編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第4版.医学書院,2020.

【評価基準】

筆記試験の得点7割 COPM面接実技試験3割の合計 10割とし、6割以上の得点で合格とする。

【実務経験】

作業療法士 臨床経験5年以上,週1回学外臨床参加

【授業概要】

呼吸器・循環器関連の基礎知識や評価などの知識の確認を行うとともに、国家試験対策問題にあたりながら問題への応用に取り組む。

【到達目標】

循環器、呼吸器関連の生理学・解剖学・運動学関連の国家試験関連の問題を6割以上正答することが出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	MTDLPの概要とプロセス、各シートの使い方 MTDLPの提出課題について説明	植村
2	聞き取りシートの使い方 興味関心チェックシートの使い方	植村
3	聞き取りシートの使い方 興味関心チェックシートの使い方	植村
4	生活行為アセスメント演習シートおよび生活行為課題分析シートの使い方	植村
5	生活行為アセスメント演習シートおよび生活行為課題分析シートの使い方	植村
6	生活行為プラン演習シートの書き方	植村
7	生活行為プラン演習シートの書き方	植村
8	演習事例の紹介	植村
9	事例のアセスメント演習シート作成	植村
10	事例のプラン演習シート作成	植村
11	肺に関する基本的解剖学的構造と機能 肺の位置、胸膜、気管に関して	植村
12	換気システムに関して 陰圧と呼吸筋(横隔膜の働き) 換気量と死腔 肺気量分画	植村
13	酸素カスケード 飽和水蒸気について 血液ガスの正常値 拘束性と閉塞性障害の判定(%VC、%FEV ₁)	植村
14	換気システムに関して 肺泡内酸素分圧に関して A _a DO ₂ に関して 拡散に関して(呼気ガスの移動)	植村
15	ヘモグロビン酸素解離曲線とパルスオキシメーターに関して 動脈血中酸素分圧の予測 呼吸不全に関して	植村
16	酸塩基平衡と演習問題 拘束性肺障害(間質性肺炎の基本的病態と症状)	植村
17	呼吸不全、フローボリューム曲線の診かた(閉塞性障害) COPDと間質性肺炎の病態	植村
18	肺のX線写真の診かた(胸水貯留、無気肺、COPD、間質性肺炎)	植村
19	呼吸器関連の評価	植村
20	呼吸器関連の評価、症例提示	植村
21	循環器系の解剖、生理	植村
22	循環器系の解剖、生理	植村
23	心電図の基礎 導出法、心臓の電気的興奮の基本原則	植村
24	心電図の基礎 上室性期外収縮、心房粗動、心房細動	植村
25	心電図 不整脈 心室性期外収縮、心室粗動、心室細動	植村
26	心電図 不整脈 房室ブロック WPW症候群 脚ブロック	植村
27	虚血性心疾患の基礎	植村
28	心不全の動態、生化学評価、X線評価	植村
29	狭心症と心筋梗塞の動態 診断、評価	植村
30	心電図読影演習	植村
31	定期試験	植村

【授業外学修】 その都度指定する生理学や内科学のテキストの予習範囲を通読しておくこと

【教科書名】 一般社団法人 日本作業療法士協会 編著:事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版.医歯薬出版,2021.

【参考図書】

- ①石澤光郎,富永淳:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「生理学」第3版.医学書院,2012.
- ②本郷利憲,廣重力,豊田順一,熊田衛 編:標準生理学第3版.医学書院,1995.
- ③前田眞治 編、前田眞治,上月正博,飯山準一,瀬田拓:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「内科学」第4版.医学書院,2020.
- ④石川隆:カラー図鑑 生理学の基本がわかる事典.西東社,2014.
- ⑤大塚正英:Dr.大塚の血液ガスの何故?が分かる 基礎から学ぶ酸塩基平衡と酸素化の評価.学研メディカル秀潤社,2012.
- ⑥高橋仁美:理学療法NAVIこの30題で呼吸理学療法に強くなる.医学書院,2017.
- ⑦高橋仁美,宮川哲夫,塩谷隆信 編:動画で分かる呼吸リハビリテーション第2版.中川書店,2008.
- ⑧永井利幸 他監:病気が見えるvol.2循環器第4版.メディックメディア,2019.
- ⑨上月正博 編著:心臓リハビリテーション.医歯薬出版,2014.
- ⑩野口善令:診断に自信がつく検査値の読み方教えます!異常値に惑わされない病態生理と検査特性の理解.羊土社,2014.
- ⑪内山靖,小林武,潮見泰蔵 編:臨床評価指標入門:適応と解釈のポイント.協同医書,2008.

【評価基準】

成績評価 筆記試験6割 MTDLPシート作成4割の合計10割とし、6割以上の得点で単位認定する。

【実務経験】

作業療法士 臨床経験5年以上,週1回学外臨床参加

科目名： 整形外科(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 中川 悟

通年 4単位

【授業概要】 整形外科の基礎的事項と骨折などの外傷性疾患を学ぶ。

【到達目標】 骨、関節、筋、神経の基礎的知識を得、骨折や外傷性疾患について理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	整形外科基礎知識 医学の歴史、骨・関節・骨格筋・神経の基本構造と機能	中川
2	運動器の評価と検査法 関節可動域や筋力測定、レントゲンやMRI、その他の検査法の知識を得る	中川
3	骨折総論 骨折の分類、診断、症状、治療	中川
4	骨折(上肢) 肩甲帯、上腕骨、前腕、手の骨折について学ぶ	中川
5	骨折(下肢) 大腿骨、膝蓋骨、下腿骨、踵骨、足部の骨折について学ぶ	中川
6	骨折(体幹・骨盤) 鎖骨、胸骨、肋骨、脊椎骨折、骨盤骨折について学ぶ	中川
7	小児の骨折 小児の骨折の特徴と代表的骨折について学ぶ	中川
8	老人の骨折 老人の骨折の特徴と代表的骨折について学ぶ	中川
9	骨折のまとめ 骨折の復習	中川
10	脊椎の疾患 脊椎の構造と代表的疾患について学ぶ	中川
11	脊髄損傷 脊髄の損傷高位と症状について学ぶ	中川
12	骨粗鬆症 骨粗鬆症の病態、機能障害について学ぶ	中川
13	関節における外傷性疾患 肩・肘・股・膝関節の構造と代表的疾患について学ぶ	中川
14	末梢神経における外傷性疾患 代表的神経損傷・麻痺の病態を理解する	中川
15	腱・靭帯における外傷性疾患 肩腱板損傷・膝十字靭帯損傷・足関節捻挫など	中川
16	定期試験	中川

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準整形外科学」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験90% レポート10%

科目名： 整形外科(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 中川 悟

【授業概要】 その他の整形外科疾患について学ぶ。
整形外科の基礎的事項と骨折などの外傷性疾患を学ぶ。

【到達目標】 スポーツ障害や、自己免疫疾患、末梢神経損傷について理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	上肢のスポーツ障害 代表的スポーツ障害(野球肩・野球肘)について理解する	中川
2	下肢のスポーツ障害 骨端症、疲労骨折について理解する	中川
3	体幹のスポーツ障害 代表的スポーツ障害について理解する	中川
4	化膿性疾患(骨髄炎、関節炎) 小児や成人の骨関節の感染症を学ぶ	中川
5	関節リウマチやリウマチ性疾患 リウマチ性疾患について学ぶ	中川
6	退行性疾患 変形性膝関節症について学ぶ	中川
7	小児の股関節疾患 日本人の股関節疾患の特徴、病態について学ぶ	中川
8	成人の股関節疾患 日本人の股関節疾患の特徴、病態について学ぶ	中川
9	骨・軟部腫瘍 代表的骨・軟部腫瘍の知識を得る	中川
10	熱傷・四肢循環障害、切断 切断の原因となる疾患の知識を得る	中川
11	上肢の末梢神経損傷 代表的な末梢神経麻痺について知識を得る	中川
12	下肢の末梢神経損傷 代表的な末梢神経麻痺について知識を得る	中川
13	超高齢化社会日本とロコモティブシンドローム(運動器不安定症)	中川
14	フレイルとサルコペニア	中川
15	後期の講義の総括 後期の復習	中川
16	定期試験	中川

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準整形外科学」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験90% レポート10%

【授業概要】 薬理学は、病気の治療、予防および診断に対して広範囲な医学分野と密接に関連した学問であるため、豊富な図解と解説の教科書を用いて、薬の基本的な作用メカニズム(薬理学)について分かりやすく解説する。

【到達目標】 薬理学は、自分に縁のない難しい学問と捉えるのではなく、日常生活において最も身近な学問の一つであることを理解する。これまでの薬に対する認識を一新し、さらに薬に対する興味・関心度を高める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	薬(薬剤)に対する意識	宮下
2	薬はどのように効いているのか・薬の運命	宮下
3	剤型のいろいろ・薬の正しい飲み方・危険な薬	宮下
4	薬の用量・薬で起こる困った問題	宮下
5	麻酔薬・睡眠薬・解熱鎮痛薬	宮下
6	向精神薬・アルコールの作用・抗てんかん薬	宮下
7	抗パーキンソン病薬・自律神経作用薬・筋弛緩薬	宮下
8	消化器に作用する薬	宮下
9	心臓に作用する薬・動脈硬化の予防・抗高脂血症薬	宮下
10	血圧を下げる薬	宮下
11	呼吸器に作用する薬	宮下
12	ホルモン療法	宮下
13	代謝性医薬品	宮下
14	抗炎症薬・化学療法薬	宮下
15	演習問題	宮下
16	定期試験	宮下

【授業外学修】 復習:講義内容を整理し理解する(理解できない場合は、次回講義の際に必ず質問すること)。

【教科書名】 「新版 超図解 薬はなぜ効くか 医師・看護師・薬剤師へ」(講談社)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 我が国は「人口減少・超高齢化・少子化」社会に直面し、「地域共生社会実現」、「地域包括ケアシステム構築、医療・介護・福祉の連携・協働」が国家的課題となる中で、作業療法士には人生のライフステージを理解した上で地域包括ケアシステム構築、精神保健分野における「地域移行・地域定着」課題について具体的アプローチが期待されている。本講義では情勢に対応する国の政策等を意識し、保健・医療・福祉・介護等関連諸制度の理解、関連職種・部署の理解と連携・協働について学ぶ。

【到達目標】 我が国における保健医療福祉の現状と課題について包括的に理解できる。当面の課題2025年に向けた「地域包括ケアシステム構築」実現と作業療法の関連が理解できる。

保健・医療・介護・福祉制度と制度に基づくサービスの理解、精神保健分野における課題の理解、関係する各専門職等の法的根拠について事例を通し理解できる。

地域リハビリテーションの展開に必要な知識・技術、多職種・部署間の連携・協働と作業療法士の機能・役割を関連付けて理解できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション 我が国における社会保障の現状と課題：人口減少、少子高齢化と社会保障	毛利
2	社会保障の全体像と地域保健福祉：①「2025年問題」の課題 ②「地域包括ケアシステム構築」	毛利
3	保健制度・事業の概要 ①保健制度・事業の仕組み ②地域保健福祉の概要・課題 ③精神保健福祉法の概要 ④母子保健事業の概要	毛利
4	医療保障制度1:①医療保障制度の全体像 ②医療保険制度の概要と特徴 ③後期高齢者医療制度	毛利
5	医療保障制度2:①診療報酬制度・診療報酬とリハビリテーション ②精神保健福祉法と精神障害者の医療・保健	毛利
6	①ICFについて基礎的理解 ②高度急性期・急性期・回復期から在宅療養に向けたリハビリテーションの機能・役割	毛利
7	介護保険関連1:法の概要:歴史、仕組、サービスの特徴	毛利
8	介護保険関連2:①医療と介護の連携 ②介護とリハビリテーションとの関連 ③介護予防・総合支援事業と作業療法	毛利
9	前半のまとめ(中間試験)	毛利
10	作業療法とかわかる様々な職種の身分法、中間試験	毛利
11	社会福祉の理解:①基礎概念 ②社会福祉をとりまく状況、仕組み・領域・運営 ③社会福祉に関係する人たちの理解	毛利
12	障害者の福祉1:①障害の概念、障害者総合支援法の概要 ③ノーマライゼーション	毛利
13	障害者の福祉2:①障害諸総合支援法によるサービス全般 ②精神保健・精神障害者	毛利
14	地域リハビリテーション:①「地域包括ケアシステム構築」に向けた関連職種との連携方法、リハビリテーションの機能・役割	毛利
15	全体のまとめ	毛利
16	定期試験(期末試験)	毛利

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】「PTOTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学(羊土社)」

【参考図書】「令和2年度版 厚生労働白書」(厚生労働省編)令和2年10月、厚生労働省がインターネットで配信する様々な審議会での参考資料等。

【評価基準】 総合評価100%:定期試験80%(中間試験、期末試験)、出席評価10%、コメントカード等10%

【その他】 必要に応じて、事前に授業に関連するレジメ・資料を配布する。事前学習を怠らない事。A4版フラットファイルを一つ用意する。

※内容変更の場合あり

【授業概要】

- ・作業療法における管理学の位置づけ, 組織マネジメント, 医療安全, 医療サービスを学ぶ。
- ・作業療法業務の実際について学ぶ。
- ・作業療法の職域や職業倫理, 作業療法を取り巻く諸制度, 作業療法臨床実習, 作業療法士のキャリア開発について学ぶ。

【到達目標】

- ・作業療法における管理学の位置づけ, 組織マネジメント, 医療安全, 医療サービスについて理解する。
- ・作業療法業務について理解する。
- ・作業療法の職域や職業倫理, 作業療法を取り巻く諸制度, 作業療法臨床実習, 作業療法士のキャリア開発について理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	作業療法におけるマネジメント	園屋
2	組織の成り立ちとマネジメント	園屋
3	情報のマネジメント	園屋
4	作業療法と医療サービス	園屋
5	医療安全のマネジメント	園屋
6	作業療法業務のマネジメント①(人・物・経済性のマネジメント)	園屋
7	作業療法業務のマネジメント②(情報・時間・ストレスマネジメント)	園屋
8	作業療法業務のマネジメント③(実践からの学び)	園屋
9	作業療法の役割と職域	園屋
10	作業療法士の職業倫理	園屋
11	作業療法を取り巻く諸制度	園屋
12	作業療法臨床実習の理解と管理体制	園屋
13	作業療法士のキャリア開発	園屋
14	作業療法士国家試験出題基準について	園屋
15	定期試験対策	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】

予習: 講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習: 授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

「作業療法管理学入門 第2版」(医歯薬出版)

【参考図書】

「リハビリテーション管理学」(医学書院)

【評価基準】

定期試験 90% 小テスト 10%

【実務経験】

作業療法士, 病院における臨床5年以上, 週1回学外臨床参加

- 【授業概要】** 対象者の生活行為の改善に作業用いた実践を意識して取り組めるように作業の特性を理解し、作業遂行が持つ心身や社会的な効果を考察し、対象者に対して適応する経験を通して作業療法実践の在り方の価値観を醸成する。
- 【到達目標】**
- ・作業の特性について知り、人が生活の中で作業が切り離せない存在であること（作業的存在）を自分なりの言葉で説明できる。
 - ・人間作業モデルの概念を通して作業モデルの内容を理解する。
 - ・作業療法実践モデルを通して作業療法の介入の大枠を説明できる。
 - ・作業分析を作業分析ツールを使用しながら実施し、その作業がどのような特徴を備えるかを把握するプロセスを経験することが出来る。
 - ・対象者の治療目的に応じて作業設定、段階づけを考え、他者と吟味することが出来る。
 - ・認知症対象者の特性を考慮しながら治療目的に合わせた作業遂行方法・環境の設定を考え、治療の根拠を意識しながら説明することができる

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	成績評価などの説明 作業とは何か	植村
2	作業の主観的意味について考える	植村
3	作業的存在と作業的公正(作業バランス)	植村
4	作業療法の理論の紹介 理論の階層性(実践理論や作業療法実践理論や人間作業モデルなどの関係性を理解する)	植村
5	人間作業モデルの概要の紹介(国家試験出題問題の解説を含む) プロセスモデルの紹介 OTIPMとMTDLPの紹介	植村
6	作業に焦点を当てた事例への介入から作業療法の効果を考える COPMとAMPSを使用して介入した1例を読み解く。	植村
7	作業分析① 風船バレーボールを実施して風船バレーボールがどのような作業特性を持つかと段階付け、応用について考える。	植村
8	作業分析① 風船バレーボールを実施して風船バレーボールがどのような作業特性を持つかと段階付け、応用について考える。 ※レポート提出(①)	植村
9	作業分析② ビンゴゲームを実施してどのような作業特性を持つかと段階付け、応用について考える。	植村
10	作業分析② ビンゴゲームを実施してどのような作業特性を持つかと段階付け、応用について考える。 ※レポート提出(②)	植村
11	認知症事例の提示(MTDLP)の提示と解説 認知症の症状などについて調べる 治療目的に対してどのような介入(環境・方法・道具など)が良いのか考える	植村
12	認知症事例の提示(MTDLP)の提示と解説 認知症の症状などについて調べる 治療目的に対してどのような介入(環境・方法・道具など)が良いのか考える	植村
13	認知症事例の提示(MTDLP)の提示と解説 認知症の症状などについて調べる 治療目的に対してどのような介入(環境・方法・道具など)が良いのか考える	植村
14	発表・質疑応答	植村
15	発表・質疑応答	植村
16	筆記試験	植村

【授業外学修】 その都度予習課題を提示するので事前に予習しておくこと。

【教科書名】 吉川ひろみ：「作業って何だろう」作業科学入門 第2版.医歯薬出版,2017.

【参考図書】 小川真寛、藤本一博、京極真：5W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書.メジカルビュー、2020.
Gary Kielhofner 編著 山田孝 監訳 人間作業モデル理論と応用改訂第3版.協同医書出版、2009.
Anne G.Fisher 著 斎藤さわ子、吉川ひろみ 監訳：作業療法介入プロセスモデル.

【評価基準】 筆記試験(作業分析、作業療法関連モデル：人間作業モデル 作業療法実践モデル：OTIPM 理論の階層性)30%
レポート① 20% レポート② 20% レポート③ 20% 授業中のワークシート 10%

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

臨床の検査測定場面を想定し、人の体に接する時の感覚や力の入れ具合、自分の体の使い方などを実際の実技演習を中心に行い、作業療法評価における検査測定の知識と技術を学ぶ。日常生活活動・手段的日常生活動作の評価、ICFの分類と相互関係を学び、対象者の状態把握に役立てる。

【到達目標】

検査手技に対する知識を得て、説明と検査が実施できる。
日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明と評価が実施できる。
ICFの分類、相互関係を理解し、全体像を把握することができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	片麻痺機能検査(Brunnstrom test) ①	池田
2	片麻痺機能検査(Brunnstrom test) ②	池田
3	片麻痺機能検査(Brunnstrom test) ③	池田
4	片麻痺機能検査(Brunnstrom test) ④	池田
5	運動麻痺に対するその他の検査(講義)	池田
6	運動麻痺に対するその他の検査(演習)	池田
7	日常生活動作評価(Barthel Index) ①	池田
8	日常生活動作評価(Barthel Index) ②	池田
9	日常生活動作評価(FIM) ①	池田
10	日常生活動作評価(FIM) ②	池田
11	日常生活動作評価(FIM) ③	池田
12	日常生活動作評価(FIM) ④	池田
13	介助法 実技(基本動作・移乗動作介助) ①	池田
14	介助法 実技(基本動作・移乗動作介助) ②	池田
15	介助法 実技(基本動作・移乗動作介助) ③	池田
16	介助法 実技(基本動作・移乗動作介助) ④	池田
17	ICFの概要と活用 ①	池田
18	ICFの概要と活用 ②	池田
19	ICFの概要と活用 ③	池田
20	ICFの概要と活用 ④	池田
21	筋緊張検査 ①	池田
22	筋緊張検査 ②	池田
23	疼痛検査 ①	池田
24	疼痛検査 ②	池田
25	姿勢分析と日常生活動作の関連 ①	池田

【授業概要】

評価の意義や評価に求められる条件を理解したうえで、上肢機能評価、画像評価、作業遂行評価、動作分析、診療記録（SOAP形式）演習、ICF分類演習を実施し、臨床実習遂行に役立てる。

【到達目標】

評価の信頼性と妥当性を検討することの意義を説明できる
 上肢機能評価のそれぞれの特性について説明できる
 中枢性疾患の画像所見から障害像を概ね推測し説明できる。
 作業遂行場面を観察してAMPS技能項目の概念に照らし合わせて採点し、作業遂行評価の方法としてAMPSの意義と方法を概ね説明できる。
 上肢の中枢性運動障害の動作の障害について正常な動作と比較し、障害の特性を勘案しながら動作の異常性について説明することができる
 診療情報に関してSOAPに分類して表記することができる
 ICF（国際生活機能分類）を用いて対象者の生活の情報を概ね整理することができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	評価の意義 評価の信頼性と妥当性 質的評価と量的評価	植村
2	臨床的最小の差MCIDについて 診療ガイドラインについて 事例を通した評価の使われ方	植村
3	上肢機能評価に関して 上肢機能とは	植村
4	上肢機能評価の紹介	植村
5	上肢機能評価演習 MFT STEF ARAT	植村
6	上肢機能検査の選択とアウトカムとしての使用例（文献を通して 整形外科領域；骨折や手の外科、脳血管障害領域、その他）	植村
7	画像評価 CTとMRIとX線に関して 正常な脳のCT、MRI画像と 解剖学的部位名称との照らし合わせ（解剖学テキストとの照らし合わせ）	植村
8	正常な脳のCT、MRI画像と 解剖学的部位名称との照らし合わせ（解剖学テキストとの照らし合わせ） 大脳皮質の機能（高次脳機能） 運動、感覚野と経路の確認	植村
9	脳疾患画像から障害像を推定する 脳出血、脳梗塞（皮質下出血）SAH	植村
10	脳疾患画像から障害像を推定する 多発性硬化症、アルツハイマー型認知症 水頭症 脳血管性認知症	植村
11	作業遂行評価 運動および処理技能評価（AMPS:Assessment of Motor and Process Skills）の紹介	植村
12	AMPS運動技能項目の概念説明	植村
13	AMPS運動技能項目の観察評価演習	植村
14	AMPS処理技能項目の概念説明	植村
15	AMPS処理技能項目の観察評価演習	植村
16	動作分析 左脳血管障害片麻痺患者の大ペグ操作の動画視聴 正常な操作との比較と違いについて記述 グループワークによる分析	植村
17	動作分析とポスター作製	植村
18	動作分析結果の発表と質疑とフィードバック ポスターツアー グループ発表	植村
19	POMR方式の診療記録の基本を理解する。SOAPの分類に入る内容を理解する。表現の簡潔性、明確性に配慮した表現を理解する。	植村
20	SOAP分類項目の内容を理解する。初回評価内容のSOAP分類を行う。	植村
21	初回評価内容に続く経過の記載実施	植村
22	初回評価内容に続く経過の記載実施	植村
23	診療記録内容のフィードバック	植村
24	ICFの概要と項目の概念の理解、情報の項目ごとの分類演習 事例紹介（次回までに整理する）※概念の理解を問う小テスト実施	植村
25	ICFの事例整理とフィードバック	植村
26	①ICF分類筆記試験	植村
27	②診療記録筆記試験とフィードバック	植村
28	AMPSと動作分析のおさらい（試験動画の観察をする）	植村
29	③動作分析実技試験 小ペグの操作 項目と理由	植村
30	④AMPS評価試験	植村
31	定期試験	植村

【授業外学修】 単元ごとに予習課題を設定する。授業開始時に小テストを実施する。

【教科書名】 能登 真一，山口 昇，玉垣 努，新宮 尚人，加藤 寿宏，松房 利憲 編：標準作業療法学 専門分野「作業療法評価学 第3版」医学書院，2017。

【参考図書】 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド。医学書院，2008。
 赤居正美 編著：リハビリテーションにおける評価法ハンドブック—障害や健康の測り方—。医歯薬出版，2010。
 内山 靖，小林 武，潮見 泰蔵 編：臨床評価指標入門—適用と解釈のポイント—。協同医書，2008。
 安保 雅博 監 中野 枝里子，田中 智子 編：脳卒中上肢機能評価ARATパーフェクトマニュアル。金原出版，2015。
 竹内 修二：解剖トレーニングノート第6版。医学教育出版，2016。
 中島雅美，中島喜代彦，大村優慈 編著：PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方 国試画像問題攻略。医歯薬出版，2016。
 中村隆一，齋藤 宏，長崎 浩：基礎運動学第6版 補訂。医歯薬出版，2015。
 Ginge Kettenbach著 柳沢 健，竹井 仁 訳：理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル—問題志向型診療記録の書き方。協同医書，2000。

【評価基準】

本試験
 ①ICF分類筆記試験 ②診療記録筆記試験とフィードバック ③動作分析実技試験 小ペグの操作 項目と理由
 ④AMPS評価試験 ⑤筆記試験 全て2割換算で合計10割（100点）として評価する。
 併せて6割以上の成績で単位修得とする。

【実務経験】

作業療法士 臨床経験5年以上，週1回学外臨床参加

科目名：臨床評価学(前期) 授業形態：講義・演習

担当教員：植村健一・池田真一・満吉幸一・橋口信洋・園屋和之

通年 8単位

【授業概要】

2グループに分け取り組む。後期に実際の臨床場面にて検査測定の実験を行う準備として、健常者を対象とした臨床スキルの練習を実施する。検査測定項目それぞれの検査の意義を確認する。

【到達目標】

臨床実習にて経験する頻度の高い検査測定項目を臨床的技術の手順を踏まえながらおおむね再現することが出来る。

【授業の進め方】

回数	授業内容
1・2	オリエンテーション
3~60	2グループに分かれて、学内・学外演習を行う 客観的臨床能力試験課題の方法に準じて以下の内容の実技練習及び、検査測定値の持つ意味の考察、検査の妥当性の検証等を行う 血圧測定の基本と道具の名称、マンシェットの巻き方、聴診器の使用法、加圧と減圧の基本と操作方法、聴診法と触診法 血圧測定練習「計測の手順」 OSCE動画視聴とデモンストレーション OSCE動画に沿った練習 形態測定の基本と触診によるランドマークの確認 形態測定練習 データの信頼性の検証 反射・筋緊張検査の方法・判定方法 評価の意義 腱の触診、打腱器の扱い方 脳神経検査 視野・眼球運動 対光反射 輻輳反射 角膜反射 の検査と方法 基本 脳神経検査 リンネ試験 Weber試験 顔面神経の検査(中枢性障害と末梢性障害) カーテン徴候 嚔下 感覚検査の基本 粗大触覚 痛覚 振動覚 位置覚 の基本と方法 運動失調検査の紹介 と OSCE動画視聴と練習 関節可動域検査の基本 関節可動域検査のOSCE課題視聴 練習 MMT実技手技の解説とデモンストレーション 練習

【授業外学修】

予習:実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版
「標準作業療法学 作業療法評価学」医学書院

【参考図書】

【評価基準】

筆記試験 25点 検査の信頼性や妥当性、測定値の意味、検査の意義などの知識を問うテスト 25点
実技試験 75点 「反射実技試験」15点 「脳神経検査実技試験」15点 「感覚検査実技試験」15点
「関節可動域実技試験」15点 「徒手筋力検査実技試験」15点
合計100点満点として成績評価する
不可の場合はそれぞれの実技試験の同課題3種類を全て行い、筆記再試験も実施する。

【実務経験】

作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名：臨床評価学(後期) 授業形態：実習

担当教員：植村健一・池田真一・満吉幸一・橋口信洋・園屋和之

【授業概要】

複数グループに分け取り組む。①検査測定実習では、教員の指導下での学外実習を行う。

②職業リハビリテーション評価場面の見学や障害者福祉施設の見学を実施し、障害者施設の環境を学ぶ

【到達目標】

実習を通じて、コミュニケーションや接遇を学び、職業人として常識的態度、責任ある行動を学ぶことができる。

情報収集・面接・観察・検査測定など作業療法評価を実施することができる。

評価結果や見学の概要、学び得た内容を整理し、全体像を把握することができる。レポートとレジュメを作成し、報告することができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容
1・2	オリエンテーション
3~60	数グループに分かれて、学内・学外実習を行う 施設での事例に対しての検査測定経験と検査測定値のまとめ 職業リハビリテーション施設の見学 障害者福祉施設の見学 施設での身体心理評価の振り返りと実技習熟のための確認と練習

【授業外学修】

予習:実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版
「標準作業療法学 作業療法評価学」医学書院

【参考図書】

【授業概要】 中枢性疾患における作業療法の目的が理解でき、適切な評価技法を身につける。また、各病期における治療技術とリスク管理についても教授する。作業や環境調整への円滑な適用が図れるようになることを目的とする。

【到達目標】 中枢性疾患における作業療法学(病巣・疾患や障害特性・回復過程など)を習得する

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	脳卒中の概要を理解する。	橋口
2	脳卒中の障害像を説明できる。	橋口
3	脳卒中の評価項目について理解する。(面接評価、観察評価)	橋口
4	脳卒中の評価項目について理解する。(検査・測定)	橋口
5	脳卒中の評価項目について理解する。(検査・測定)	橋口
6	脳卒中の作業療法プログラムを計画できる。	橋口
7	脳卒中のADLを指導・援助するための作業療法プログラムを計画できる。	橋口
8	脳卒中のADLを指導・援助するための作業療法プログラムを実施できる。起居動作、靴の着脱、移乗動作	橋口
9	脳卒中のADLを指導・援助するための作業療法プログラムを実施できる。車椅子操作、トイレ動作、更衣動作	橋口
10	脳卒中のADLを指導・援助するための作業療法プログラムを実施できる。食事動作、床からの立ち上がり	橋口
11	脳卒中のADLを指導・援助するための作業療法プログラムを実施できる。環境調整	橋口
12	脳卒中の上肢回復に対する作業療法プログラムを計画できる。	橋口
13	脳卒中の上肢回復に対する作業療法プログラムを実施できる。①	橋口
14	頭部外傷について概要を理解する。	橋口
15	頭部外傷の各病期に応じた作業療法目標を設定し、作業療法プログラムを計画できる。	橋口
16	脊髄損傷の疾患概要を理解する。	橋口
17	脊髄損傷の評価計画を立案できる。	橋口
18	脊髄損傷のプログラムを立案・実施できる。	橋口
19	脊髄損傷のプログラムを立案・実施できる。	橋口
20	脊髄損傷の残存レベルと最終獲得機能について理解する。①	橋口
21	脊髄損傷の残存レベルと最終獲得機能について理解する。②	橋口
22	脊髄損傷の残存レベルと最終獲得機能について理解する。③	橋口
23	脊髄損傷の残存レベルと最終獲得機能について理解する。④	橋口
24	多発性硬化症の臨床症状を理解する。	橋口
25	多発性硬化症の評価からアプローチ方法を実施できるようになる。	橋口
26	中枢神経疾患に対しての自助具を理解する。	橋口
27	中枢神経疾患に対しての自助具を作製できる。①	橋口
28	中枢神経疾患に対しての自助具を作製できる。②	橋口
29	中枢神経疾患に対しての自助具を作製できる。③	橋口
30	中枢神経疾患に対しての自助具を作製できる。④	橋口
31	定期試験	橋口

【授業外学修】 予習:予習レポート(約1時間)

復習:復習レポート(約1時間)

【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節-神経疾患編」(羊土社)

「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション医学」(羊土社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験50% 予習・復習レポート10% 小テスト10% 実技試験10% 口頭試験10% 自助具作製5% 自助具レポート5%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

- 【授業概要】 1. 末梢神経の疾患の特徴や臨床症状を理解し、評価から問題点抽出するまでの視点を学習する。
2. 評価計画立案、評価の実施、問題点を抽出できるようになる。

- 【到達目標】 様々な末梢神経疾患の臨床症状を把握し、評価の列挙やアプローチ方法を学び実践できるようになる。
また、自助具適応などについても知識を修得し、作成できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	パーキンソン病の臨床症状を理解する。	橋口
2	パーキンソン病の作業療法評価を説明できる。	橋口
3	パーキンソン病の作業療法目標を設定できる。	橋口
4	パーキンソン病の作業療法プログラムの計画・治療を説明できる。。	橋口
5	脊髄小脳変性症の臨床症状を理解する。	橋口
6	脊髄小脳変性症の作業療法評価からアプローチ方法を説明できる。	橋口
7	筋萎縮性側索硬化症の病態及び予後について説明できる。	橋口
8	筋萎縮性側索硬化症の評価からアプローチ方法を説明できる。	橋口
9	関節リウマチについて、臨床症状を説明できる。	橋口
10	関節リウマチの評価を実施できる。	橋口
11	関節リウマチに対するADL指導を実施できる。	橋口
12	関節リウマチに対するADL指導を実施できる。	橋口
13	ギラン・バレー症候群に関して、臨床症状を理解する。	橋口
14	ギラン・バレー症候群に関して、評価方法からアプローチ方法を説明できる。。	橋口
15	重症筋無力症について、臨床症状を説明できる。	橋口
16	重症筋無力症について、評価からアプローチ方法を説明できる。	橋口
17	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎について臨床症状を理解する。	橋口
18	上肢の末梢神経損傷に関して、臨床症状を理解する。	橋口
19	上肢の末梢神経損傷に関して、評価とアプローチ方法を説明できる。	橋口
20	腱損傷の特徴と臨床症状を説明できる。	橋口
21	腱損傷の臨床症状を説明でき、評価とアプローチ方法を説明できる。	橋口
22	腱板断裂の特徴と臨床症状を説明できる。	橋口
23	腱板断裂に対する作業療法の評価を説明できる。	橋口
24	熱傷に対する作業療法について、行うべき治療と支援を理解する。	橋口
25	悪性新生物についての医学的治療を理解する。	橋口
26	悪性新生物についての作業療法プログラムを計画できる。	橋口
27	サルコペニアとリハビリテーション栄養について説明できる。	橋口
28	糖尿病の病態を理解する。	橋口
29	糖尿病に対しての作業療法プログラムを計画できる。	橋口
30	下部尿路機能障害の臨床症状を説明でき、評価とアプローチ方法を説明できる。	橋口
31	定期試験	橋口

- 【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

- 【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト身体障害作業療法学2 内部疾患編」(羊土社)
「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション医学」(羊土社)

【参考図書】

- 【評価基準】 定期試験60% 予習・復習レポート10% 小テスト10% 実技試験10% 口頭試験10%
【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

- ・精神機能作業療法の基本的視点, 精神保健医療福祉, 精神機能作業療法の実践基盤について学ぶ。
- ・疾患別精神機能作業療法について学ぶ。
- ・状態別精神機能作業療法ならびに場面別精神機能作業療法について学ぶ。

【到達目標】

- ・精神機能作業療法の基本的視点, 精神保健医療福祉, 精神機能作業療法の実践基盤について理解し修得する。
- ・疾患別精神機能作業療法について理解し修得する。
- ・状態別精神機能作業療法ならびに場面別精神機能作業療法について理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	精神機能作業療法の基本的視点	園屋
2	精神保健医療福祉と作業療法	園屋
3	精神機能作業療法の理論・実践モデル	園屋
4	地域生活における作業療法の視点	園屋
5	回復過程と作業療法①	園屋
6	回復過程と作業療法②	園屋
7	症状性を含む器質性精神障害に対する精神機能作業療法①	園屋
8	症状性を含む器質性精神障害に対する精神機能作業療法②	園屋
9	精神作用物質使用による精神および行動の障害に対する精神機能作業療法①	園屋
10	精神作用物質使用による精神および行動の障害に対する精神機能作業療法②	園屋
11	統合失調症, 統合失調症型障害および妄想性障害に対する精神機能作業療法①	園屋
12	統合失調症, 統合失調症型障害および妄想性障害に対する精神機能作業療法②	園屋
13	気分(感情)障害に対する精神機能作業療法①	園屋
14	気分(感情)障害に対する精神機能作業療法②	園屋
15	神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害に対する精神機能作業療法①	園屋
16	神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害に対する精神機能作業療法②	園屋
17	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群に対する精神機能作業療法①	園屋
18	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群に対する精神機能作業療法②	園屋
19	成人の人格および行動の障害に対する精神機能作業療法①	園屋
20	成人の人格および行動の障害に対する精神機能作業療法②	園屋
21	小児[児童]期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害に対する精神機能作業療法①	園屋
22	小児[児童]期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害に対する精神機能作業療法②	園屋
23	認知機能障害における精神機能作業療法	園屋
24	身体合併症における精神機能作業療法	園屋
25	退院支援における作業療法	園屋
26	就労支援における作業療法	園屋
27	復職支援における作業療法	園屋
28	地域生活支援における作業療法	園屋
29	司法精神医療における作業療法	園屋
30	定期試験対策	園屋
31	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

「標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版」(医学書院)

【参考図書】

「精神障害と作業療法 病を生きる, 病と生きる 精神認知系作業療法の理論と実践 新版」(三輪書店)

【評価基準】

筆記試験 90% 小テスト 10%

【実務経験】

作業療法士, 病院における臨床5年以上, 週1回学外臨床参加

【授業概要】 高齢者特有の身体的・精神的な変化について学習し、作業療法の視点から高齢者への援助・訓練の方法を学ぶ。
高齢期障害における作業療法の目的・計画・訓練について学習する。

【到達目標】 対象とする高齢者に必要な対応を理解できるよう、介護保険にて対象者の心身機能とマッチングできる。
高齢者の特性から対象者の状態把握、リスク予想ができる。
関わる場面ごとに適切な援助が想起できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	高齢者とは(社会的分類・身体的分類)	満吉
2	作業療法士に求められる視点とアプローチ①	満吉
3	作業療法士に求められる視点とアプローチ②	満吉
4	高齢社会について	満吉
5	高齢者の社会的役割	満吉
6	高齢者に対する社会施策の歴史	満吉
7	介護保険法:総論	満吉
8	介護保険法:要介護度区分①	満吉
9	介護保険法:要介護度区分②	満吉
10	介護保険法:要介護度区分③	満吉
11	高齢者の特性・リスク管理①	満吉
12	高齢者の特性・リスク管理②	満吉
13	高齢者の特性・リスク管理③	満吉
14	認知症:分類と特徴①	満吉
15	認知症:分類と特徴②	満吉
16	認知症:リハビリテーション①	満吉
17	認知症:リハビリテーション②	満吉
18	認知症:評価(HDS-R・MMSE)	満吉
19	高齢者のADL評価(FIM)	満吉
20	嚥下機能①	満吉
21	嚥下機能②	満吉
22	環境改善アプローチ:福祉用具概論	満吉
23	環境改善アプローチ:福祉用具(疾患・ADL場面各論)①	満吉
24	環境改善アプローチ:福祉用具(疾患・ADL場面各論)②	満吉
25	アプローチ総括:評価のポイント	満吉
26	症例へのアプローチ(模擬事例検討):症例紹介	満吉
27	評価計画の立案	満吉
28	問題点の列挙と整理	満吉
29	ICF列挙と統合	満吉
30	治療計画立案とゴール設定	満吉
31	定期試験	満吉

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学」(メジカルビュー社)

【参考図書】 「老人のリハビリテーション」(医学書院)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 脳の発達過程から高次脳機能とは何かを学ぶ。高次脳機能の各障害の症状の特徴を学び、評価と訓練に対する理解を深める。臨床実習に向けて、高次脳機能障害に対する評価や訓練が実施できるように演習を行う。

【到達目標】 高次脳機能障害の基礎知識を学び、障害特性について説明できる。
各障害の症状の特徴、及び評価、訓練の方法を学習し、説明・実践することができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	高次脳機能障害とは	池田
2	脳機能局在と画像所見の見かた	池田
3	注意障害の定義と分類	池田
4	注意障害の評価と訓練	池田
5	半側空間無視の定義と分類	池田
6	半側空間無視の評価と訓練	池田
7	記憶障害の定義と分類	池田
8	記憶障害の評価と訓練	池田
9	失語の定義と分類	池田
10	失語の評価と訓練	池田
11	失行の定義と分類	池田
12	失認の定義と分類	池田
13	失行と失認の評価と訓練	池田
14	遂行機能障害・社会的行動障害の定義と分類	池田
15	遂行機能障害・社会的行動障害の評価と訓練	池田
16	定期試験	池田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版」(医学書院)

【参考図書】 「リハビリテーションビジュアルブック」第2版(学研) 「病気がみえる vol 7 脳・神経」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 切断・義手の知識や評価内容を理解し、義手の適合性判定について理解を深める。また、装具について知識を習得し、整形疾患に適応するスプリント作製が行えるように技術を習得する。

【到達目標】 ①切断に至る原因や義手の種類・評価について理解する。
②スプリント作製に関する知識を知り、疾患に対してのスプリント作製技術を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	義肢装具に関わる作業療法士の役割を説明できる。	橋口
2	義手の種類、部品構成について説明できる。	橋口
3	公的支給制度について理解する。	橋口
4	下肢切断について説明できる。	橋口
5	仮義手について説明できる。	橋口
6	上腕切断、切断・離断術について説明できる。	橋口
7	切断術後の断端管理について説明できる。	橋口
8	幻肢について説明できる。	橋口
9	義手の評価について説明できる。	橋口
10	能動義手について説明できる。	橋口
11	筋電義手について説明できる。	橋口
12	義手のチェックアウトについて説明できる。	橋口
13	下腿義足、大腿義足について説明できる。	橋口
14	装具について基礎知識を説明できる。	橋口
15	上腕装具、下肢装具、体幹装具について説明できる。	橋口
16	掌側カックアップスプリントの型紙作成ができる。	橋口
17	掌側カックアップスプリント作製ができる。	橋口
18	短対立装具の型紙作製ができる。	橋口
19	短対立装具作製ができるようになる。	橋口
20	作製したスプリントの再評価・フォローアップができるようになる。	橋口
21	各疾患に対しての型紙が作製できる。	橋口
22	各種型紙について理解し、疾患に対しての型紙を選択できる。	橋口
23	脳卒中に対しての装具について説明できる。	橋口
24	脳性麻痺に対しての装具について説明できる。	橋口
25	手外科疾患に対しての装具について説明できる。	橋口
26	頸髄損傷に対しての装具について説明できる。	橋口
27	関節リウマチに対しての装具について説明できる。	橋口
28	神経難病に対しての装具について説明できる。	橋口
29	熱傷とスプリント療法について説明できる。	橋口
30	ロボットリハビリテーションについて理解する。	橋口
31	定期試験	橋口

【授業外学修】 予習レポート(約1時間)

復習:レポート(約1時間)

【教科書名】 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト義肢装具学 第1版 メジカルビュー社

【参考図書】

【評価基準】 定期試験60% 予習・復習レポート10% 小テスト10% 口頭試験10% スプリント作製10%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 日常生活活動(以下ADL)の基本概念や目的に沿った評価方法を学ぶ。
各疾患別のADLの特徴・障害要因・評価・実践プロセス・留意点などを学ぶ。

【到達目標】 ADLの評価方法を理解し、想起できるようになる。
各疾患のADL援助方法を理解し、臨床場面で実践できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	ADLの概念と作業療法士の役割の理解 ①	橋口
2	ADLの概念と作業療法士の役割の理解 ②	橋口
3	ADL評価のポイント ①	橋口
4	ADL評価のポイント ②	橋口
5	各ADL動作の分析と支援方法についての理解(食事動作について) ①	橋口
6	各ADL動作の分析と支援方法の理解(食事動作について) ②	橋口
7	各ADL動作の分析と支援方法の理解(排泄動作)	橋口
8	各ADL動作の分析と支援方法の理解(更衣動作)	橋口
9	各ADL動作の分析と支援方法の理解(整容動作)	橋口
10	各ADL動作の分析と支援方法の理解(入浴動作)	橋口
11	各ADL動作の分析と支援方法の理解(コミュニケーション動作)	橋口
12	各ADL動作の分析と支援方法の理解(料理、洗濯、住宅改修)	橋口
13	脳血管障害のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
14	脳血管障害のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
15	脊髄損傷のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
16	脊髄損傷のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
17	パーキンソン病のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
18	パーキンソン病のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
19	神経筋疾患のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
20	神経筋疾患のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
21	脳性麻痺のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
22	脳性麻痺のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
23	呼吸器のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
24	呼吸器のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
25	心疾患のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
26	心疾患のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
27	関節リウマチのADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
28	関節リウマチのADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
29	人工関節のADL動作の分析と支援方法について説明できる ①	橋口
30	人工関節のADL動作の分析と支援方法について説明できる ②	橋口
31	定期試験	橋口

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト ADL第2版」(羊土社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験40% 予習・復習レポート10% 小テスト10% 実技試験30% 口頭試験10%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

地域生活における作業療法士、多職種の業務と役割について理解を深める。福祉機器の知識や操作方法、選定について学ぶ。住宅に関する一般的な知識と住環境評価の視点を学び、住宅改修について理解を深める。

【到達目標】

地域リハビリテーションの概念を理解し、地域作業療法を支える社会資源や実践の場に応じた作業療法を説明できる。

住環境整備に関わる作業療法を理解し、地域における住環境整備の意義と作業療法の視点について説明できる。

福祉機器の体験を通して、適用や選定について学び、支援の実際について説明ができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	地域リハビリテーションの概念	池田
2	地域作業療法の概念	池田
3	住環境評価、住環境整備 ①	池田
4	住環境評価、住環境整備 ②	池田
5	福祉用具と住環境 ①	池田
6	福祉用具と住環境 ②	池田
7	福祉用具に応じた支援の実際 ①	池田
8	福祉用具に応じた支援の実際 ②	池田
9	福祉機器展・セミナー参加（福祉機器の体験、モデルハウス見学）①	池田
10	福祉機器展・セミナー参加（福祉機器の体験、モデルハウス見学）②	池田
11	福祉機器展・セミナー参加（福祉機器の体験、モデルハウス見学）③	池田
12	福祉機器展・セミナー参加（福祉機器の体験、モデルハウス見学）④	池田
13	住環境調査報告書作成 ①	池田
14	住環境調査報告書作成 ②	池田
15	住環境調査報告書作成 ③	池田
16	住環境調査報告書発表	池田
17	校外車椅子体験 ①	池田
18	校外車椅子体験 ②	池田
19	校外車椅子体験 ③	池田
20	校外車椅子体験 ④	池田
21	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規 ①	池田
22	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規 ②	池田
23	校外車椅子体験発表	池田
24	予防分野のリハビリテーション	池田
25	地域作業療法の実際 ①	形部
26	地域作業療法の実際 ②	形部
27	作業療法士の起業の実際 ①	中村
28	作業療法士の起業の実際 ②	中村
29	地域における作業療法士の役割 ①	白浜
30	地域における作業療法士の役割 ②	白浜
31	定期試験	池田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「地域リハビリテーション学第2版」(羊土社)

【参考図書】 「現場から学ぶ自立支援のための住宅改修」(医学書院)「新イラストによる安全な動作介助のてびき第3版」(医歯薬出版社)

【評価基準】 定期試験70%・レポート30%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 見学実習(後期) 授業形態： 実習 担当教員： 植村健一・池田真一・満吉幸一・橋口信洋・園屋和之
1単位

【授業概要】 臨床場面において、作業療法士の業務内容(評価、目標設定、プログラム立案、治療、再評価、報告、記録等)および他スタッフとの関わり方、対象者との信頼関係の構築等を見学・体験する。作業療法対象疾患を臨床場面で学ぶ。

【到達目標】 作業療法士の業務内容(評価、目標設定、プログラム立案、治療、再評価、報告、記録等)を説明することができる。社会人として相応しいコミュニケーションをとることができるようになる。

【授業の進め方】

授 業 内 容
実習施設において5日間の見学実習を行う 1) 実習目的 作業療法評価、プログラム立案、治療、報告、記録の一連の業務を見学・体験する。 対象者との接し方、他スタッフとの関わり方を見学・体験する
2) 指導担当者 臨床実習指導者・担当教員

【授業外学修】 予習:実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「これで安心PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 実習成績30点 報告書・報告会20点 デイリーノート10点 実習出席点40点 :計100点

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

臨床実習施設に入院あるいは外来通院されている症例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。1施設3週間実施する。

【到達目標】

評価実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、多職種での役割を学ぶ

作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につける

対象者の改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける

【授業の進め方】

授 業 内 容

オリエンテーション
事前学習
情報収集
評価計画立案
評価実施（見学・模倣・実施）
問題点の抽出
問題点相互関係の整理・分析・焦点化
目標設定
治療計画立案
症例報告
実習の振り返り

【授業外学修】

予習：実習に臨む前に、該当する教科書・資料等を確認し、必要な実技の練習を行う。（約1時間）

復習：実習内容を整理し、振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】

【参考図書】

【評価基準】

実習成績30点 報告書・報告会20点 デイリーノート10点 実習出席点40点 :計100点

【実務経験】

作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションを行っている臨床実習施設で利用されている症例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。
1施設1週間実施する。

【到達目標】

地域実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、多職種との役割を学ぶ
作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につける
地域リハビリテーションを体験し、地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を学ぶ

【授業の進め方】

授 業 内 容

オリエンテーション
事前学習
情報収集
地域リハビリテーション場面見学
実習報告
実習の振り返り

【授業外学修】 予習：実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準作業療法学 地域作業療法学第3版（医学書院）」

【参考図書】

【評価基準】 実習成績30点 報告書・報告会20点 デイリーノート10点 実習出席点40点 :計100点

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加